

朝鮮史研究者にまつては一層幸便であらうが。(四六倍版五九八頁、京城近澤商店出版部發賣)〔布村〕

●平安南北道の方言 文學博士小倉進平著

京城帝國大學法文學部研究調査冊子の第一集である。

先づ調査地方の政治的沿革を顧慮する事によつて漢の四郡時代に土語の外支那語が公用語として用ひられたるべき事七百年に亙る高勾麗統治の結果その系統の言語の殘存すべき事高麗朝に後女眞語の影響ありしならん等の推察を試みこの見地より音韻、語法、語彙等につきその分布系統等を調査せるものにして其間上述の如き推察を實證するものがあつて興味がある。(菊版五七頁、京城帝國大學發行、〔肥後〕)

●島根縣史八 尼子毛利時代下 島根縣學務部編

本書は、昨年五月出版された第七卷の尼子毛利時代史を完結し續いて藩政時代に及べるものであつて、先づ尼子晴久、同義久、次に毛利元就及輝元の事蹟を詳述し、其後に當時の産業、内外の通商、著名なる儒僧の事を説き、最後の藩政時代の章は僅かに堀尾氏初代の事に留め

である。前卷と同様に多數の古文書を引用して複雑なる當時の史實を詳叙してあるが、就中大森銀山の争奪の事を記せる所に此の銀山は産銀の多額なるを以て前に大内尼子兩氏、後に尼子毛利兩氏が之を争奪して己が金穴に爲した、毛利元就は弘治二年に此の銀山を領有し永祿元年に尼子氏に奪還されたが、同二年に彼が正親町天皇の御即位御料として銀五十九貫餘を獻納したのは全く此の銀山を採掘して置いたに依るものである事を述べ、又産業の章では其頃の物價、租物、銀山、製鐵と鐵工業の事を調査し、内國通商の章では此地方の重要商品は鐵であつて、宇龍港にて北國船因州但州船は船役を小野氏に納め尼子家より免許の印判を得た船は其の印判役を小野氏が徴收して之を尼子家に進納した事、これらの船が寄港通商をなすには問屋が必要であつた事を述べ、外國修交通商の章では出雲國守京極持清が朝鮮と通交した事、出雲に於ける通商港は美保關と宇龍とであつて殊に宇龍では尼子時代に最も盛に行はれ、唐船の舟役は小野家の領する所であつた事等を述べてあるのは經濟、通商史方面の

参考にもならう。卷末には洗骸城址外十三枚の繪圖寫眞が附してある（菊版八六四頁、島根縣發行）〔松野〕

●日本藥業史

池田 嘯風著

神代より現代に至る日本藥業の發達を説いたもので明治以後を特に詳密に叙べて居る。藥物と人生とはかなり密接な關係があるからその發達を研究する事は興味ある題目であるが相當に困難な仕事であらう。されば本書の如きも主として藥物の名稱と藥物取扱並に販賣等に關する法規の如きものを取扱つて居る。且史料の蒐集不十分の爲鎌倉時代の如き僅かに二頁を宛てたるのみであるのは繁簡その當を得ないものである。然しながら從來類書を有せざりし方面であるからこれ亦多少は已むを得ないところであつて著者の勞を多しするに共に更に一層研鑽せられん事を望む（菊判四一五頁、京都藥業時論社發行、價三、五〇）

●横濱郷土史料吉田新田古圖文書

吉田勤兵衛良信は攝津より出て明曆中横濱の地百十六町を墾いた。即吉田新田であつて、今日横濱市の中樞た

る伊勢佐木町附近が全部それである。本書はこの開拓に關する文書古圖を集めコロタイプ版に附したものの、石野瑛氏がその説明を書いて居る。横濱市の歴史にまつては最重要な史料であることは云ふまでもないが横濱が今日占むる位置を考へるならばこれらの史料も亦少くも日本の意味ありきすべく然らずとするも一般に新田開發經營の次第を見るべきものである（菊判横綴、圖版二三、横濱吉田家藏版、非賣品）〔以上肥後〕

●近江神崎郡志稿 神崎郡教育會

上古百濟歸化民による特殊文化の培養地として、更に中世以降近江商人活躍の一淵叢として、神崎郡の歴史上占むる位置には獨自なものがある。大正元年郡教育會が大橋金藏氏にそれら事蹟の編纂を託してより十五年、氏の不撓の努力は人事自然のあらゆる方面に向けられて二卷十五編二百數十章の大冊を生んだ。豊かな資料の巧みな整理と夥しい事項の精緻な記述とは過去文化の繁榮を示すのに充分であり、不斷の努力による特殊資料の採訪は郡志としての本書の價値を高むるであらう。然も編者